


海外派遣研究助成事業による研究の成果

研究者氏名	今泉 健 
所属機関	北海道大学北海道大学病院消化器外科 I
<ul style="list-style-type: none"> ・研究に従事した外国の研究機関名 ・参加した国際学会・会議名 	European Colorectal Congress of St. Gallen, 2019 — St. Gallen, Switzerland
渡航期間	自 2019/11/30 至 2019/12/05
<ul style="list-style-type: none"> ・研究内容 ・国際学会・会議内容 	大腸外科に関する学会参加、研究発表
<p>研究成果 （ 要約：800 字 ）</p> <p>今回、2019/12/01-05 に開催された European Colorectal Congress of St. Gallen, 2019 に参加した。発表演題は、「 Preoperative diagnosis of regional lymph node metastasis of colon cancer by contrast-enhanced ultrasonography」で、12/04 に Poster session にて発表を行った。内容は、結腸癌の術前リンパ節転移診断に、経腹壁超音波は有用であり、造影評価を併用することでリンパ節転移の重症度をより正確に評価できるというものであった。内容に関する質問や他の演題でも術前評価に着目したものがあり、発展性のある研究分野であることを再認識した。今後の研究の発展において非常に有意義な場になったと考えている。</p> <p>本学会は、欧州のエキスパートが集う会であり、最新の知見が数多く紹介されていた。特に、歴史的に日本で発展した D2, D3 といったリンパ節郭清の概念や直腸癌手術における側方リンパ節郭清は、欧米で注目されている。しかし、科学的に立証されたエビデンスが乏しいことが日本の弱みであり、欧州で複数のランダム化比較試験が計画されており、この結果が出たときには欧米で作られた治療法になってしまうのではないという危機感を感じた。他には、進行結腸癌に対する術前化学療法の大規模なランダム化比較試験の結果や大腸憩室炎の治療に関する複数のランダム化比較試験の結果が紹介されており、一つの研究プロジェクトで今後の標準治療となりうるエビデンスが複数示されており、研究計画から非常に熟慮されて練られた試験であることが感じられた。臨床試験を計画するにあたって日本も参考にしなければならない姿勢であると思った。</p> <p>本学会で学んだものは、日々の臨床および今後の日本の医療の発展に必要なものとして新たな取り組みを行うことで還元していきたい。</p>	